

「社会と情報」の授業を変えよう

大阪府立りんくう翔南高等学校 千葉 緑

要旨 本校の「社会と情報」の授業は実習中心の授業になっており、実習で身に付けた能力は進学・就職先では欠かせないものとなっている。しかし、携帯電話や SNS 等の問題が多く取り上げられることが多くなった今、情報モラル教育を始めとした座学を取り入れた授業展開を行うことは必要不可欠である。そのため本稿では「社会と情報」の授業をどのように展開していくかを構想したい。

1. はじめに

本校大阪府立りんくう翔南高等学校は、大阪府立泉南高等学校と大阪府立砂川高等学校を統合し、普通科総合選択性の高等学校として 2009 年に開校した学校である。この普通科総合選択制とは 1 年生で共通履修科目を中心に基礎基本の学習を行い、2 年生からは必修科目と希望進路に応じた「エリア」や「自由選択科目」を選択する(図 1.)。

「エリア」とは、生徒の興味・関心に対応したテーマに関係する科目のまとまりのことであり、本校では人文考究、理数・医療、スポーツ科学、芸術表現、こども・福祉、情報科学の 6 つのエリアが設けられている。また「自由選択科目」とは、基礎学力を充実する科目・発展的学力をつける科目・地域の特性を生かした科目など、様々なタイプを約 70 科目用意している。選択したエリアの枠を超えて、一人一人が進路希望や興味・関心に応じて 10 科目を選ぶことができる。その中で情報関係の授業は表 1. のとおりである。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
1 年	英語総合		現代社会		数学 I		数学 A		化学基礎		体育		保健		英語 I		英語表現 I		英語総合		英語 II		英語表現 II		家庭総合		社会と情報		総合的な学習の時間		L	H	R
2 年	現代文 B		世界史 A		日本史 A / 地理 A		数学 II		生物基礎		物理基礎		体育		保健		英語 II		英語総合		エリア指定 2科目		自由選択 2科目		総合的な学習の時間		総合的な学習の時間		L	H	R		
3 年	現代文 B		数学活用		体育		英語総合		英語表現 II		エリア指定 2科目		自由選択 8科目															総合的な学習の時間		L	H	R	

図 1. 教育課程表

表 1. 本校の情報関係の授業一覧

必修科目		
情報	社会と情報	1 年
情報科学エリア		
普通教科「情報」	(学)情報とプログラミング*2	2 年
専門科目「情報」	情報メディア*	3 年
商業	情報処理*	2 年
	情報処理*	3 年
自由選択科目		
普通教科「情報」	(学)情報ライセンス	3 年
商業	ビジネス情報	3 年
	プログラミング	3 年
専門科目「情報」	情報の表現と管理	2 年
	表現メディアの編集と表現	3 年

2. 生徒の「技術・家庭」の履修状況と情報機器利用状況

本校の 1 年生 234 人に「技術・家庭」の技術分野の履修状況と情報機器利用状況についてアンケートを行った。

2.1 「技術・家庭」の履修状況

技術分野の履修状況については、(A)材料と加工、(B)エネルギー変換、(C)生物育成、(D)情報の 4 分野があり、複数回答可でアンケートをとった結果、(A)材料と加工を履修している生徒が 84.6% (198 人)と多く (D)情報に関しては 31.6% (74 人)と 3 割になった。また、分野に関係なく授業で PC を使用した生徒は、全体の 83.8% (196 人)であり、全く使用していないという生徒は 9.4% (22 人)と回答した。このことから、情報に関する授業の有無に関わらず、PC を使用した経験がある生徒は多いことがわかる。

2.2 情報機器利用状況

情報機器利用状況としては、携帯電話所持が 97% (225 人)と高く、そのうちの 91.5% (214 人)は 1 台所持、3.8% (9 人)が 2 台所持、1.6% (4 人)がそれ以上の所持となっている。また携帯電話を所持し 1 つ以上 SNS を使用している人は 96.9% (218 人)とほぼ全員が SNS を使用し友達や親等とコミュニケーションを取っていることがわかる。

1 (学) : 学校設定科目

2 * : エリア指定科目

3. 現在の授業状況

3.1 1年必修科目「社会と情報」

「社会と情報」の授業はまず毎回の授業開始時に毎日パソコン入力コンクールを使用してタッチタイピングの練習を行うことを基本としている。1学期はワープロソフトの使用法として全商ビジネス文書実務検定3、4級レベルの問題を題材にして行う。2学期は表計算ソフトウェアの使用法として入力方法から合計、平均等を求める基礎的な関数の使用方法やグラフの作成を行う。3学期はプレゼンテーションの使用法としてスライドに見本と同じように文章を書き画像等を挿入する作業を行う。作成時間、授業時間数の関係で発表までは行っていない。

3.2 2年エリア指定科目

エリア指定科目では、「社会と情報」で行うべき座学の内容を中心として、情報処理検定2、3級レベルの知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解する授業、情報技術に関する基礎的な知識の向上を図り、プログラミングに関する基礎的な知識・技術を習得する授業を行っている。

3.3 3年エリア指定科目

3年エリア指定科目では、2年エリア指定科目の続きとして全商情報処理検定1級レベルの内容と情報を収集、処理するための知識と技術を習得させるとともに、処理させた情報を分析し活用する能力を育成する授業、情報機器を利用したプレゼンテーションの技法や情報発信の際のマナーやモラルを学ぶ授業を行っている。

3.4 自由選択科目

自由選択科目では、全商ビジネス文書実務検定2、3級の内容を練習し、コンピュータリテラシーを向上させる授業、全商情報処理検定2、3級の内容を練習し、コンピュータリテラシーを向上させるとともに検定の取得を目指す授業、プログラミングに関する知識と技術を習得する授業、マルチメディアによる表現活動を通して、マルチメディアによる伝達効果とその特質について理解させ、作品を構成・企画する授業を行っている。

4. 前提条件

前提条件として、授業時間数と、授業構成があげられる。

1点目の授業時間数については、今年度の「社会と情報」は、1学期16時間、2学期24時間、3

学期10時間の計50時間の予定である。これは他校に比べて少ないため、授業内容に工夫が必要である。

2点目の授業構成については、2、3年生の授業で、検定試験受験必須の授業もあるため、その練習では検定試験の内容を取入れている。この2点については配慮をして授業を構成する必要がある。

5. 取り入れるべき内容

「社会と情報」の内容は(1)情報の活用と表現、(2)情報通信ネットワークとコミュニケーション、(3)情報社会の課題と情報モラル、(4)望ましい情報社会の構築である。これら全てを学習に取り入れるべきではあるが、様々な条件があるため難しく、取捨選択する必要がある。この中で最も重要なものは、情報の信頼性と信憑性、著作権、情報の表現、伝達の内容である。さまざまな場所から情報を入手することができるがその情報が本当に正しいものなのかどうかは、受け手がしっかりと判断をしなければ何らかのトラブルに巻き込まれる危険性があることを教える必要がある。また、SNSを使用する生徒が増加に伴い、文字情報のみの会話でのトラブルも増えている。伝達方法の違いを指導する必要があると考えている。その他の内容についても、今後検討する必要がある、今後の課題としたい。

6. おわりに

共通教科情報については、実習時間の指定がなくなり、「実習と座学のバランスについては各学校の実情に応じて行うこと」となっている。そのため本校のように実習のみで授業を展開することでPCの使用法については理解し使用することができている。しかし、実習だけではなく時代の必要に応じて授業内容を適切に変えていくことは共通教科情報には必要だと考えている。また、本稿で構想した内容を実践せず、その成果を否定するのではなく、実際に授業を行いその成果を見ることが今後の課題だと考えている。

参考文献

- (1) 小池 則行: 今時の中高生のスマホ・ソーシャル利用実態調査報告: 全国情報教育研究会第6回大会ポスターセッション (2013)
- (2) 毎日パソコン入力コンクール:
<http://www.maipaso.net/>(最終閲覧日 2014/07/04)
- (3) 無料・メールアプリ LINE(ライン)
<http://line.me/ja/>(最終閲覧日 2014/07/04)